

## 平成21年度重点研究事業の事後評価について

平成24年 3月  
研究推進委員会

本学では重点研究事業の成果などの状況を把握し、今後の研究の更なる発展に資するために、各研究事業の事後評価を行った。

その結果は次のとおりである。

### 1 対象となる事業

平成21年度重点研究事業で採択した研究課題のうち、「科学研究費補助金獲得支援」の研究区分で採択した課題及び研究代表者が退職した課題を除く、計29件

#### 【平成21年度重点研究事業の研究区分】

高等教育推進研究, 科学研究費補助金獲得支援, 戦略的プロジェクト研究, 地域課題解決研究, 学内ベンチャー育成研究, 学部プロジェクト研究

### 2 事後評価の方法:

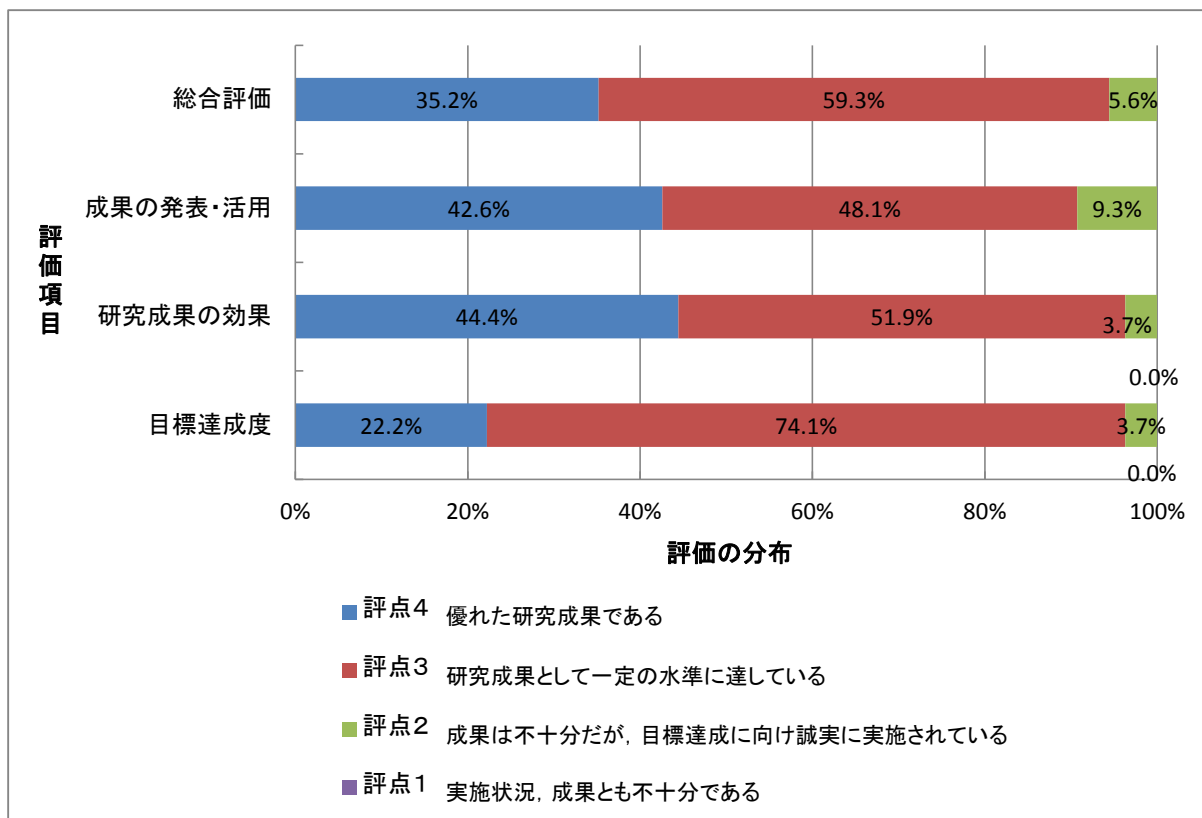
外部有識者(1研究事業あたり2名)による書類評価。

ただし、地域課題解決研究は外部有識者及び課題提案者各1名、学部プロジェクト研究は外部評価者1名による。(外部評価者計54名による評価)

### 3 評価結果の概要: 以下のとおり

(単位: 件)

	目標達成度	研究成果の効果	成果の発表・活用	総合評価
評点4	12	24	23	19
評点3	40	28	26	32
評点2	2	2	5	3
評点1	0	0	0	0



#### 4 学部プロジェクト研究について

##### 【平成21年度学部プロジェクト研究総括】

学部プロジェクト研究は、平成20年度より開始し今回が2回目となる。  
各学部長のリーダーシップのもと、学部の特徴や強みを前面に出したプロジェクト研究を進めようとする意図がうかがえ一定の成果が出ているが、課題も指摘されている。  
各学部が掲げた研究テーマ、その実施体制、研究の進め方は、学部ごとの方針を反映しており一律に論じるのは難しい。  
研究テーマの設定に当たって、教育の充実を図る研究とするか、地域の課題解決的な研究とするかあるいは先端的な研究とするか、また、研究体制を学部全体、学科ごと、あるいは学部内の特定の研究者グループとするかなど選択の幅は広い。  
事後評価においては、各評価委員から「評価できる点」「実施状況や成果が不十分だったと思われる点」「今後の研究に対する要望」について詳細な意見をいただいた。  
各学部長には、これらの評価を踏まえて、この研究区分が「教育の質向上や学部の独自性を発揮できる研究」推進を目的とすることを念頭に、更なる研究の深化・充実に努めることを期待する。

##### 【学部別事後評価要約】

###### 人間文化学部 「国際交流の促進と国際コミュニケーション能力向上のための調査・研究」

教育・研究における国際化という重要な課題に、国際文化学科と地域連携センターとが共同して教員18名が3つの部会で国際交流、語学力アップ、留学生支援に取り組み、成果をあげたことは評価できる。  
国際交流では海外訪問による交流会を踏まえて実態を分析して改善に努め、語学力アップではTOEIC, TOEFLの数値目標を設定して向上を図り、留学生支援では意見交換会・交流会を踏まえてイベントを実施するなど、現実的な展開が見られた。  
今回の研究成果を、中長期的視点から全学的な国際コミュニケーション能力向上のための、教育・研究推進の実践及びカリキュラム強化に結びつけて、本学の特徴にまで高めることを期待する。

###### 経営情報学部 「広島地域における新サービス産業の創出・活性化に関する総合的研究口

###### - 実践型サービス人材育成プログラムの開発に向けて -

経営・経営情報の両学科の12名の教員が、新サービス産業の創出・活性化という統一テーマのもと、各専門を生かして多岐にわたる理論研究・事例研究を行ったものである。  
学部をあげたプロジェクト研究として、多くの論文・学会発表という成果が得られたが、研究成果の全体をまとめた新サービス産業の創出・活性化という総合的な視点からの提言がなく、12の専門分野の研究の寄せ集め的印象が否めない。  
今回の研究成果を踏まえて、新サービス産業の創出・活性化につながる特定の課題を絞って更に研究を深めて、実用的なイノベーションに繋げることを期待する。

###### 生命環境学部 「がん形質発現機構をモデルとしたシグナル伝達病の戦略的生命科学研究」

本研究は、「がん」の革新的な診断方法と治療方法のための分子標的を見つけるという、専門性が極めて高い研究であり、特定の研究グループによる個別研究である。  
そのため、学部全体の教員・院生が連携して研究し、研究成果を共有することは難しいが、学部プロジェクト研究を、学部内での公募・審査によって選定するという手法は、教員の専門的・先進的研究を奨励するという観点から成果があった。  
学部の全教員・院生が競って、それぞれの専門分野において専門的・先進的研究を深め、教育の質向上に繋げることを学部内に定着させることが出来れば、学部プロジェクト研究の一つの在り方と言える。

###### 保健福祉学部 「運動・作業・認知機能障害の効果的リハビリテーション法の開発に関する研究」

学部として研究テーマを掲げ、3学科の教員14名と学外研究者1名が連携して、共通の目標に向かって共同研究を行ったものである。  
本研究においては、神経科学的手法を用いてリハビリテーションの実証的検討がなされ、機能回復が見込めない症例に対しても理学療法士によるリハビリテーションの有効性が確認され、介助者の関わり的重要性が指摘されるなど基礎研究成果を上げたことが、大いに評価できる。  
研究メンバーが、それぞれの専門分野で専門的解析・研究を深め、より一層の理論化・モデル化ができれば、研究成果の一般化や治療モデルとしての臨床応用に繋がり、学部として独自性を発揮できる研究の育成、教育の質向上につながることを期待できるので、それぞれが応用研究を深めて研究成果を発表し、効果的なりハビリテーションの効果的な方法を開発することを期待する。